

入院時栄養評価 SGA ～低アルブミン患者 3 割超える～

新潟リハビリテーション病院臨床検査科・藤井佳子

【背景】

NST 委員会は、入院時 SGA（主観的包括的評価）により栄養状態評価を行っています。今回 SGA の評価項目であるアルブミンが入院時において 3.5 mg/dl 以下となっている患者の実態を把握し、NST 介入 3 ヶ月後の栄養状態を、アルブミンの値で追跡し、SGA での評価前平成 19 年の値と比較検討しました。

【方法】

平成 21 年 1 月～12 月までの入院患者 536 名。但し、6 ヶ月以内の再入院患者は除きます。

- 1) 入院時栄養評価 SGA: 入院時栄養評価 SGA のチェックリストには、低アルブミン 3.5 mg/dl 以下 摂食・嚥下障害 BMI18.5 以下 炎症所見あり 下痢 脱水 著明な体重減少 疾病改善等 17 項目あり、総合的に栄養状態を判定しています。チェック項目数により 良好・低リスク・中リスク・高リスクの 4 段階に分類します。
- 2) アルブミンとは、肝臓で作られ患者の栄養状態を反映する検査項目です。検査方法は、新 BCP 法で検査しています。この検査方法では、炎症反応性の蛋白を測りこみません。半減期が 21 日と長く長期的な栄養状態の指標となります。低栄養時の免疫力低下に関係があると考えられています。免疫力との関係を CRP 値で検討してみました。
- 3) 評価を受けて行う介入方法としては、適切な食事形態での食事の提供・補助食品・嗜好調査・食事量の評価・血液検査（1 週・2 週・3 ヶ月後）等があります。

【結果】

当病院の平成 21 年平均入院時アルブミンは 3.68 mg/dl でした（図 1）。成人健常者アルブミンの範囲以下で 60 歳以上の外来患者平均アルブミンと比べても、大きく下回っていました。そしてアルブミン 3.5 mg/dl 以下の患者は 37%と 3 割を超え、その中でも 3.0 mg/dl 以下は 16%にも上りました。

アルブミンの生理的変動幅と測定精度を踏まえ、0.3 mg/dl 以上の上昇を改善とすると 平成 21 年低アルブミン患者（平均アルブミン 3.06 mg/dl）で NST が介入したアルブミン 3 ヶ月後の結果は、31%で改善が見られました（図 2）。

平成 19 年では、低アルブミン患者（平均アルブミン 3.15 mg/dl）のアルブミン 3 ヶ月後の結果は、18%の改善に留まっていた。

【考察】

アルブミンの低下は、炎症性疾患と大きく関係し、その回復期には適切な栄養管理が重要であることがわかりました。

【結論】

患者の入院時の栄養状態を、的確に把握し介入することにより、アルブミン値の改善が見られました。

入院生活において、栄養状態を包括的に把握し、維持・改善することにより、疾患の治療・リハビリをスムーズに行うことができます。これからも NST 委員会では、栄養管理に役立つ活動をしていきたいと思います。

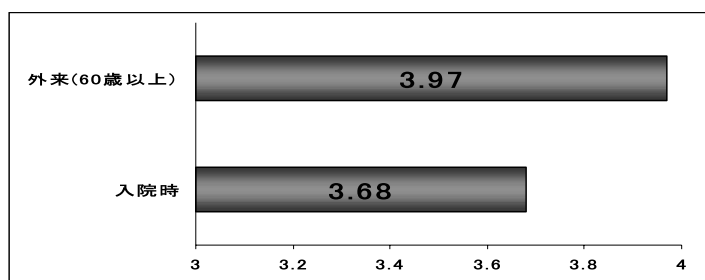


図 1.

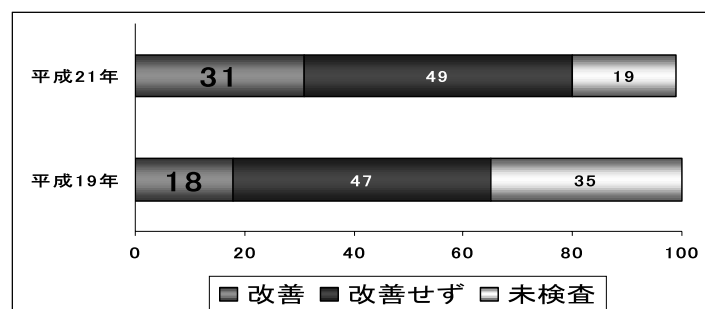


図 2.

【文献】

- 1) 臨床化学における定量検査の精密さ、正確さ評価法指針（改訂版）：日本臨床検査標準協議会会誌 1999
- 2) 第 11 回日本病態栄養学会学術集会 ランチョンセミナー報告 2008.1/12～13